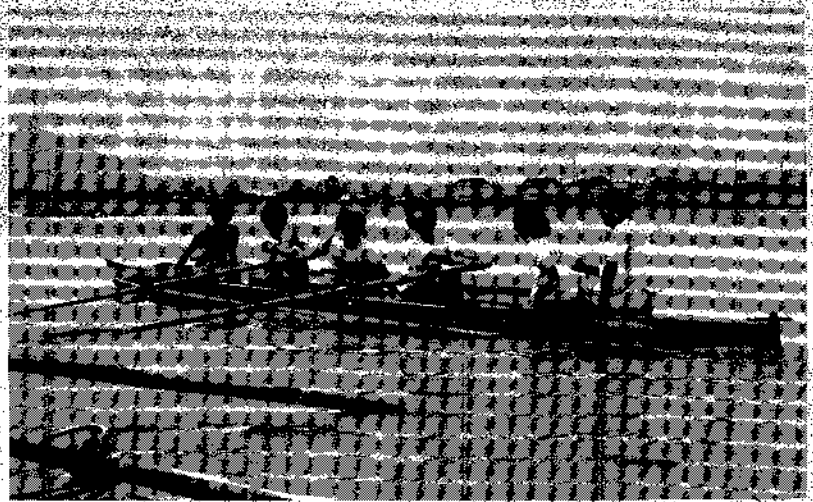


26回学内レガッタ

優勝はスキー部(男) 遠足部(女)



今年も、6月27、28両日に第26回学内レガッタが閉幕される予定でした。参加クルーも、127クルーとレガッタ史上最高数と、非常に盛り上がり、私たちが役員も喜びでおりました。しかし、集中豪雨のため旭川が増水し、やむなく次週の7月4、5日に順延ということになりました。

参加クルーの方々は連絡不徹底で大変迷惑をおかけしたことを、この場をかりてお詫言申し上げます。順延したせいか、大会では、乗換クルーが続出し、少々しらけムードが漂っていました。しかし、試合も、準決勝となるにつれ、盛り上がりが増し、熱気がムンムンと感ぜられました。

特に男子決勝では、役員も仕事を忘れ、伴走までする始末で、私としてはまずまず期待通りの楽しい大会だったように思われます。

今年も、順延はしたものの、無事に終了し、役員一同、ほっとしております。参加クルーが多数だった丸「火の海II世号」が、今回は優勝し、昨年、準優勝だった「オールドアツツ」(岡大教職員)が今年も栄光をつかむか、スキー部の追撃なるか、はたまた、理学部動物形態が底力を発揮するかと、非常に興味深い試合展開になるのでは、と期待されました。

結局、オールドアツツが予選落ちするという番狂わせもありましたが、決勝は、スキー部二艇と、動物形態の三艇戦で行われました。スタートで、動物形態「KUMIKO」が、スキー部をおさえ、トップに立ちました。ミドルで、前戦の疲れが見え、どんどんに崩れ、ラスト200で「スキー部金の鳩」が若さにものを言わせ、一気に抜き去り、スキー部が去年の雪辱をはたし、優勝しました。

一方、女子は、毎年出場している遠足部がキャリア、テクニクともに、他クルーを圧倒し、堂々と三年連続優勝を成し遂げました。

今回も、順延はしたものの、無事に終了し、役員一同、ほっとしております。参加クルーが多数だった丸「火の海II世号」が、今回は優勝し、昨年、準優勝だった「オールドアツツ」(岡大教職員)が今年も栄光をつかむか、スキー部の追撃なるか、はたまた、理学部動物形態が底力を発揮するかと、非常に興味深い試合展開になるのでは、と期待されました。

ボートは、いくら一人ががんばって力漕しても決して進むものではありません。クルーメンのオールドアツツと合ったとき初めて進むのです。ゆえに数ある団体競技の中で、最も難しいと言われている。だから、大男ばかり乗るクルーが決して強いのではなく、小さくてもチームワークさえあれば勝てるのです。ここにボート競技の最大の魅力があるのです。

全力を投入して漕ぎ切ったあとに流す汗の爽快感は、やった者しかわからない特別なものです。

みなさん、来年は是非この大会に出場してみてください。きっとすばらしい思い出になると思います。

学内レガッタ実行委員会

久しぶりにおもしろい映画を見たという感じ、この映画におさめられているフィルムはすべて真実であるだけに、ドラマ以上にドラマティックで、フィクション以上に超現実的である。たとえば、40人もの若い女性を殺しておこなう、自ら自分の弁護役を努める秀才テッド・ベンダー、祖母、母親、更に8人の女子大生を殺し、しかもその時の心境を冷静に独房の中で分析してみせたケンパル、ジョージ・ケネディ大統領を敵愛し、現在もなお彼が生き続けていることを願う涙を流していることを、この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「原爆詩集」青木文庫
峠 三吉
原水禁運動の伝統を考える

原水禁運動の伝統を考える

この峠三吉の詩を讀めば日本の原水禁運動の伝統は決して、人民と帝国主義者が「共に」平和をこい願うといったものではなかったことが明らかになるだろう。この詩は核兵器とは、帝国主義の政治の道具であり原水禁運動は、反帝国主義であるというところをよく示している。

この峠三吉の詩を讀めば日本の原水禁運動の伝統は決して、人民と帝国主義者が「共に」平和をこい願うといったものではなかったことが明らかになるだろう。この詩は核兵器とは、帝国主義の政治の道具であり原水禁運動は、反帝国主義であるというところをよく示している。

書評

峠三吉の「原爆詩集」

青木文庫

平和式典が禁止され夜の町角、暗の橋脚に立哨の警官がうごめいて今日を迎えた広島街の真中、八丁堀交差点Fアパートのそのかけうわけてはない。

しかし、戦争の危機とわが核戦争の危機が近づくなかで、日本の原水禁運動の革命的伝統の復活が求められている現在、この「原爆詩集」はたいへん重要なものとしてあると思われる。

まず、峠三吉の「一九五〇年の八月六日」という詩は、現在の当局の主催する八、六の集會がまったくのまやかしてあることを知らせてくれる。

一九五〇年の八月六日
走りよってくる
走りよってくる
あからからちこちから
腰の拳銃を押しえた
警官が、馳けよってくる

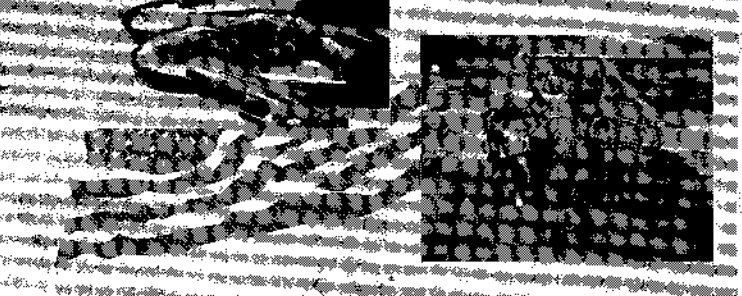
腕が叩き落した
手が空中でつかんだ
眼が読んだ
労働者、商人、学生、娘
近郷近在の老人、子供
八月六日を命日にもつて全

鋭いアビールノ
電車が止る
ゴーストツビが崩れる
ジービがころがりこむ
消防自動車のサイレンが
はためき、

二台、三台、武装警官隊
のトラックがのりつける
私服警官の増列するなか
を
外国の高級車が侵入し
アパートの出入口はけわ
しい検問所とかわる
だがやっぱりピラがおち
る
ゆっくりと、ゆっくりと
庇にかかったピラは符を
もった手が現われて
丁堂にはき落し
一枚、一枚、生きもののよ
うに

この峠三吉の詩を讀めば日本の原水禁運動の伝統は決して、人民と帝国主義者が「共に」平和をこい願うといったものではなかったことが明らかになるだろう。この詩は核兵器とは、帝国主義の政治の道具であり原水禁運動は、反帝国主義であるというところをよく示している。

VIOLENCE U S A



「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。

「アメリカンバイオレンス」は攻撃できる状態のことであり、「自由」とはそのような「平等」をもとに保証された括弧つきの「自由」である。この映画は鮮明に映し出している。この映画は、まさに事実のみが持つ迫力で見者を圧倒する。ここにこの映画の「アメリカ」がある。むしろ「恐ろしさ」がある。世界一の超大国アメリカ。